



## 草・樹/鶴居村

瀬川 寛

アクリル絵具、キャンバス

出張などで飛行機に乗って遠くの街に行くときに、いつも眼下の大地をみるのが好きだった。

日本の地形は美しく、いつか絵に描きたいと思っていた。

ここ数年、65 インチの大型パソコンモニターに映し出したグーグルアースなどの衛星画像を、ひたすら、100 号のキャンバスに描きうつす作業を繰り返している。

北海道鶴居村は、丹頂鶴の撮影ではとても有名な所だが、丹頂鶴の姿が見られない夏に訪れても、とても美しく気持ちの良いところである。

その大地は、山林と、牧場と、農地が、見事に調和して広がっている。

絶対的な大自然の山や谷などの存在と、人間が牧畜や農業の営みのために開墾し手入れを続けて形成された造形が、現在、気になってしかたがない光景を生み出している。

衛星画像の映像を、パソコン画面の中で地球に近づいたり遠ざかったりしながら、わくわくする気持ちを切り取らせて頂き、キャンバスの上に肉筆で置き換えている。

その作業は、こまかいし、なかなか大変だが、描こうとしている相手は、何十年、何百年…何億年もかけて創造されたと思えば、自分の苦労は小さいものだと考えて、毎日キャンバスに向かっている。